中学生のみなさん
子宮頸がんワクチンを打ちましょう

＜子宮頸がんワクチンって？＞

子宮頸がんワクチンとは、子宮頸がんなどの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐ予防接種のことを指します。定められた期間を空けて、同じワクチンを2回もしくは3回接種します。 子宮頸がんは子宮の入り口（子宮頸部）にできるがんで、原因のほとんどが性交渉によるヒトパピローマウイルス感染で、性交渉の経験がある女性は誰でもこのウイルスに感染する可能性があると言われています。また感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えることが多いですが、ごく一部の人ではがんになる前の段階（異形成）を経て数年から数十年かけて子宮頸がんになることがあります。

この感染を抑える効果があると言われているのが、子宮頸がんワクチンです。日本では、2013年6月から積極的な接種を控えていましたが、2022年4月より定期接種の勧奨がされています。積極的な接種を控えていた時期に接種対象年令となり接種を逃してしまった方へのキャッチアップ接種が2022年4月より2025年3月まで実施されました。（一部2026年3月まで継続措置あり）

現在、日本で接種できる子宮頸がんワクチンには3種類あります。2価ワクチン（サーバリックス）、4価ワクチン（ガーダシル）、9価ワクチン（シルガード 9）で、サーバリックスとガーダシルは子宮頸がんの 60%程度、シルガードは 80-90%を予防すると言われています。HPV 感染の既往やがん検診異常のある女性に対しても、まだ感染していない型のウイルスに対しての予防効果があります。

＜筆者の施設におけるキャッチアップ接種の実態＞

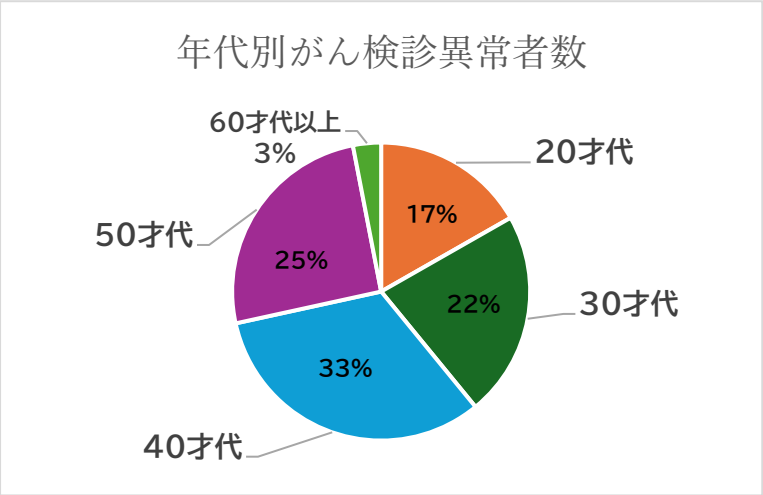
2023年4月にシルガード接種が可能となり、キャッチアップ世代の接種人数が増えました。2023年4月より2025年3月までの2年間に当施設にて子宮頸がんワクチン接種した人数は299名でうち公費接種46名、キャッチアップ接種242名、自費接種10名、drop out は1名でした。

また、1回目の接種年令が15才未満であれば2回接種で終わります。（ちなみに当施設の去年までの2年間の公費接種対象者のうち、2回接種は30名、3回接種は16名でした。）

今年度以降は、公費接種世代にほぼ限られるため、小児期からの予防接種のトリとしての子宮頸がんワクチン接種を推奨します。予防接種には当然のことながら、

効果とリスクがあります。
　接種についての不安や疑問については厚労省のリーフレットや各自治体の相談窓口、愛知県医師会の相談窓口もありますので確認および理解した上での接種をお勧めします。

＜子宮がん検診異常＞
　近年、若年者の子宮頸がん罹患率の上昇が言われています。2020年の統計では、女性の年齢別がん罹患数で、子宮頸がんは20代と30代の1位となっています。
　当施設での去年1年間の子宮がん検診異常197名の内訳を円グラフで示します。20代 33名、30代 44名で、キャッチアップ接種対象者はそのうち24名となっていました。20代、30代の検診異常者で手術に至った例は幸いありませんでしたが、3ヶ月～半年ごとの検診を余儀なくされています。



＜最後に＞
　中学生のみなさん、女子だけでなく男子（一部の自治体ではすでに公費接種が始まっています）も子宮頸がんワクチンを打ちましょう。

参考資料
厚生労働省発行　リーフレット：HPV ワクチンについて知ってください
国立がん研究センター：がん統計
産婦人科診療ガイドライン
MSD 株式会社発行リーフレット：HPV ワクチンは成人女性にも接種が可能です